

祝！重要文化財指定



エベスさん（第3展示室にいます）

令和6年10月に開催された国の文化審議会において、当館を重要文化財（建造物）に指定するよう答申があったところですが、12月9日（月）の官報告示をもって重要文化財となりました。

この場所にしかない建築の素晴らしさを活かしながら、これからも歴史民俗資料館として多くの皆さまに親しんでいただけるよう活動してまいります。

屋内外を行き交う流動的な展示空間を備えた 広域の歴史民俗資料館

瀬戸内海を見晴らす高台に建つ広域の歴史民俗資料館で、香川県技師の山本忠司やまもとただしの設計により昭和48年（1973）に完成しました。

中庭とその周囲を回遊する動線計画に基づいて、正方形の展示室等を自然の地形にあわせて上下左右にずらして配置しており、各所に大きな開口を設け、内外が連続する動的かつ開放的な展示空間を実現しました。

外観は凹凸のある複雑な形態で、一部の展示室等には当地で採れた石材を積み、周囲の自然景観との調和を図っています。機能性や合理性を重視したモダニズム建築の手法を踏襲とうしゅうしながらも、立地や風土を考慮し、豊かな自然が残る地方の場所性を活かした秀逸な作品となっています。また、調査・研究などの諸機能を完備した総合的な地方歴史民俗資料館の最初期の完存例としても貴重です。

1970年代に建てられた建造物として初めて指定される、国内で最も若い（新しい）重要文化財建造物となります。（令和6年10月時点）

